

### 第3期宇都宮市中心市街地活性化基本計画（素案）に関するパブリックコメントについて

#### 1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 意見の募集期間 令和元年 2月 3日 ～ 2月 21日 まで
- (2) 意見の応募者数 4名 (男性 4人, 女性 0人)  
意見数 13件
- (3) 提出方法の内訳

	郵送	ファクシミリ	Eメール	持参	電話	計
人数			3	1		4

#### 2 意見の処理状況

区分	処理区分	数
A	意見の趣旨等を反映し、基本計画に盛り込むもの	
B	意見の趣旨等は、計画案に盛り込み済みと考えるもの	3
C	基本計画の参考とするもの	4
D	基本計画に盛り込まないもの	1
E	その他、要望・意見等	5
	計	13

意見番号	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
1	宇都宮の中心市街地には、郊外のインターパークやベルモールにはない、歴史や文化などの資源があると感じている。こうした街なかの良さや強みを活かして、郊外と差別化を図りながら、活性化を進めてほしい。	C	本計画では、活性化に向けた施策において、「都市拠点にふさわしい個性や価値の向上」を掲げ、街なかの魅力を高め、多くの人を惹きつけるまちづくりに取り組んでいくこととしております。こうした魅力づくりに向けましては、ご意見を参考としながら、計画に計上した「歴史的建造物保存・活用事業」や「餃子通りの魅力創出」、「釜川整備活用事業」など、地域資源を最大限に活用した活性化事業を一体的に進め、郊外にはない、街なかならではの独自の価値と個性が発揮される、魅力ある中心市街地の形成を進めてまいります。
2	中心市街地への来訪者にとって、公共施設や観光施設などの位置が分かりづらいように感じる。スマホなどを活用して、来街者が欲しい情報が得やすくなるような情報の発信や施設案内の充実を図ってほしい。	B	本計画では、「ICTを活用した観光情報の発信」や「情報発信・収集が可能なデジタルサイネージの導入」などの事業を計上し、観光客などの来街者に対するおもてなしの充実と回遊性の向上に取り組んでいくこととしており、事業実施に当たりましては、ご意見を参考にしてまいります。
3	今後控えている再開発事業などの大型事業は、完了までに相当の時間を要するものと考えられるが、竣工した建物や施設はすぐに建て替えができないことから、後戻りすることのないよう、将来のLRTの導入を意識しながら、現時点から一体的に事業を進めてほしい。	C	本計画では、「活性化戦略2」におきまして、「二荒山神社周辺における市街地再開発事業の促進」や「JR宇都宮駅西口周辺地区の整備」などの事業について、LRTの駅西側への導入を見据え、まちづくりを効果的に進めていくための戦略事業として位置付けております。ご意見を参考にしながら、LRTと一体となった魅力ある都市空間の形成が図れますよう、取り組んでまいります。

意見番号	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
4	<p>駅西側のLRTの検討は、駅西口の再開発やまちづくりに影響するものであることから、<u>スピード感を持って早めに市の方針やスケジュールを明らかにしてほしい。</u></p>	E	<p>JR宇都宮駅西側のLRTにつきましては、<u>駅東側のLRTの開業後、早期に駅西側の整備に着手できる</u>よう取り組んでいくこととしたところであり、「<u>LRTの整備区間</u>」について、令和2年度に決定し、公表することとしたところであります。</p> <p>また、本計画では、「<u>活性化戦略2</u>」におきまして、<u>駅西側のLRTの導入を見据え、まちづくりを効果的に進めていくための方策等を整理したところであり、LRTの導入と併せ、「快適な移動環境の創出」と「LRT沿線の基盤整備」によるまちづくりを一体的に進め、活性化の好循環を生み出す環境・基盤を創出していくことが重要であると認識しており、LRTと一体となった各種活性化事業の着実な推進が図れますよう、取り組んでまいります。</u></p>
5	<p>JR宇都宮駅前に流れる田川は、<u>貴重な資源</u>なので、これを利用して、<u>駅の利用者や多くの人が集まったり、楽しめるような水辺ならではのイベントを開催するなどの仕掛けづくり</u>をしてほしい。</p>	C	<p>本計画では、「<u>公共空間の利活用促進</u>」などの事業を計上し、<u>公園、広場、道路、河川等の公共空間において、イベントやオープンカフェ等による憩いと賑わい空間の創出に取り組んでいくこととしております。</u></p> <p>ご提案いただいた内容は、<u>地域資源である田川の公共空間を活用した賑わいの創出等に繋がるものと考えられますことから、ご意見を参考にしております。</u></p>
6	<p>第2期計画に掲げた事業は計画通りに実施したにも関わらず、<u>3つの目標とも未達に終わっている。第2期計画の理念が誤っていたのか、目標を高く設定しすぎたのか、それとも目標と事業計画に乖離があったのか、分析・検討結果を教えてほしい。</u>最重点は<u>少子化を食い止めること</u>にあり、第2期計画そのものが<u>勘所を外していたのではないか</u>という点も含めて第2期計画を今一度見直し願いたい。</p>	C	<p>本計画では、計画書50～52ページの「<u>数値目標の達成状況</u>」及び「<u>第2期計画の総括</u>」におきまして、<u>3つの目標（活力・賑わい・居住）ごとに目標達成に至らなかった原因・背景等について分析しているところ</u>であります。</p> <p>「<u>活力</u>」につきましては、<u>大規模商業施設が郊外に立地している影響や時代潮流の変化により「モノ消費」から「コト消費」へと移行していること等に伴う消費行動の変容、さらにはICT技術等の進展等に伴う経済活動の変化等を背景に、「事業所数」の目標値の達成には至らなかったものと考えます。</u></p> <p>「<u>賑わい</u>」につきましては、<u>自動車保有台数が増加傾向にあり、中心市街地への来訪手段の6割が自家用車であること、事業所数・従業者数の減少などを背景として、「歩行者・自転車通行量」の目標値の達成には至らなかったものと考えます。</u></p> <p>「<u>居住</u>」につきましては、「<u>居住人口</u>」の目標値に<u>わずか8人</u>ならずで達成には至らなかったものの、<u>大手地区市街地再開発事業などによる分譲マンションの供給や、家賃・住宅取得補助などの居住支援策などの効果により、中心市街地内の人口は増加傾向にあります。</u>一方で、<u>中心市街地は市全体として少子高齢化の傾向が顕著であり、単身世帯が多い状況にあるなど、世帯構成に偏りがあります。</u></p> <p>これらの第2期計画における数値目標の達成状況や、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、<u>更なる活性化を推進していくため、今後、第3期計画に基づき、各種活性化事業に取り組んでまいります。</u></p>

意見番号	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
7	<p>中心市街地の将来像のスローガンを「うごく つながる 心躍る みんなで創る 宮の街なか」としているが、適切なスローガンなのか。「住んでよかった宇都宮」とした方が市全体がまとまって取り組めるのではないか。</p>	D	<p>本計画では、LRTの導入やJR宇都宮駅東口地区のまちびらきによる効果等を活かしながら、活性化に向けた取組方針である「活力」「魅力」「賑わい」「居住」「仕組み」の5つの方針に基づく取組を進めることで目指すべき将来の中心市街地の状態を具体的に端的に表現したものを「将来像」として設定したところであります。</p> <p>今後、計画に計上した各種活性化事業を官民一体となって着実に推進し、将来像の実現を目指してまいります。</p>
8	<p>現行の宇都宮市役所の組織を一度、解きほぐし、中心市街地になければならない機能とそれ以外の機能に二分し、前者を現市庁舎に留め、後者を他の15地区へ分散するように改革をしてはいかか。議会は本会議を除き、常任委員会等の会議は他の15地区持ち回りで巡回開催する。この分散化は職員の移住を伴い、また同時に関連企業の移転を促すことにもなる。この改革は、若い働き手が分散することに伴い、各地域で出生率を増加することとなり、さらにはネットワーク型コンパクトシティとも関連して本庁以外の15地域の地場振興にも資することとなり一挙両得の施策だと考える。</p>	E	<p>本市では、「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」におきまして、中心市街地を「都市拠点」、郊外部の各地域を「地域拠点」として位置付け、各拠点の連携・補完により持続的に発展する都市を目指しております。都市拠点につきましては、本市全体の活力をけん引する高次の商業・業務機能などの都市機能を高度に集積し、中枢性や広域的な求心性を高めるため、行政機関をはじめ専門的な知識を必要とするサービス産業や、高い機能を有する医療・福祉、金融などの都市機能を集約していくこととしております。また、地域拠点につきましては、行政サービス機能をはじめ、日常生活に関するサービスを楽しむように都市機能を集積・集約していくこととしております。いただいたご提案につきましては、今後、都市拠点等の形成に向けた各種取組を推進していく上での参考とさせていただきます。</p>
9	<p>昨年の台風19号は市内全域に大変な被害をもたらした。田川、姿川の川周辺に暮らしていた方々には大変な災難をもたらした。この20年間の緊縮財政によって河川は危機的な状況にある。緊急の「市債」によって緊急対策を施しておかなければ今年の豪雨・台風には耐えられないのではないか。</p>	E	<p>中心市街地の活性化を進めていく上では、さらなる街なか居住を推進していくことが必要であり、居住者が住みやすい、住み続けたいと思える安全・安心な生活環境の充実などに向けた取組が重要であると認識しておりますことから、ご提案いただいた内容は、今後の取組を進めていく上での参考とさせていただきます。</p>
10	<p>市総合計画においてネットワーク型コンパクトシティを標榜しているが、外周を結ぶネットワークが欠けたままの状態になっている。東側西側のLRTを整備してもネットワークの強化はできない。現行NCCの構想は放射状ルートしか想定されていないが、これに加えて外周の環状基幹道路を巡らすことにより市内交通の便益はもちろんのこと、市から他のまちへ出たり他のまちから宇都宮市へ入るアクセスは格段に向上し、宇都宮市の活性化に寄与するに違いない。第1環状道路(現宮環)の外側に第2の環状道路(外周)を建設してネットワーク強化を図るべきと考える。</p>	E	<p>本市では、「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」におきまして、鉄道やLRTなど広域性を持つ交通から地域内交通などの身近な生活を支える交通まで、階層性を持った公共交通ネットワークを構築するとともに、自転車走行空間・歩行空間の整備や道路ネットワークを形成することで、過度に自動車に依存することなく、誰もが自由に移動できるまちづくりに取り組んでいくこととしております。今後とも、交通ネットワークが整備された利便性の高い都市の形成に向け、取り組んでまいります。</p>
11	<p>飲食店ではなく、八百屋など生活物資の小売店を増やし、買い物難民をなくすべきと考える。</p>	B	<p>本計画では、「生活利便機能の充実」などの事業を計上し、増加する居住者の日常的な買い物需要などに対応した、生活利便機能の向上のための取組を推進していくこととしており、事業実施に当たりましては、ご意見を参考にしてまいります。</p>

意見 番号	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
12	<p>「中心市街地の活性化に向けて取り組む事業」において「継続」とされている事業は、今までと同様の取組にとどめ、計画期間中に新たな施策の検討や追加は行わないということか。</p>	E	<p>「活性化に向けて取り組む事業」のうち、第2期基本計画において計上し、引き続き本計画においても実施していく必要があるものを「継続」の事業として計上したところであります。これらを含め、計画に計上した事業につきましては、今後、計画に掲げた目標の達成状況等を確認しながら、適宜見直し・改善を行い、より実効性の高い事業となりますよう、取り組んでまいります。</p>
13	<p>「中心市街地の活性化に向けて取り組む事業」において全ての事業が並列に挙げられているが、優先的に取り組む事業や当計画の目玉となる事業などと区別することはしないのか。</p> <p>様々な取組を行うことは良いことと思うが、多くの事業を並列すると分かりづらくなるのではないかと。宇都宮市のまちづくりの柱となる事業については特に市民に理解を求め、また発信を強化する必要があるのではないかと。</p>	B	<p>本計画では、より効果的かつ着実な活性化を推進していくためには、LRTのJR宇都宮駅東側の開業とJR宇都宮駅東口地区のまちびらきによる効果を中心市街地全体に波及させるとともに、LRTの駅西側への導入を見据え、まちづくりを効果的に進めていくことが特に重要であると捉え、そのための方策等を「活性化戦略」として整理し、活性化に向けて戦略的に進めていくべき事業を「戦略事業」として位置付けたところであります。</p> <p>これらの事業につきましては、いただいたご意見を参考に、市民理解の促進や情報発信を図りながら着実に推進してまいります。</p>